

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 大学院自然科学研究科

組織目標		達成状況(成果)		
教 育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院教育改革の拡大実施を検討 ○ 国際交流推進 ○ 中高校生の科学啓発 ○ 女性研究者育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院教育改革の拡大実施を検討 『産学連携による実践型人材育成事業』による長期インターンシップを継続して実施し、高い評価を得ている。また、教育研究プログラム戦略本部策定の『新しい大学院教育コースを目指して—先進基礎科学特別コースの設置—』を受けて、コース導入準備室を設置し、導入に向けた準備を始めた。 ○ 国際交流推進 ・フエ大学院特別コースにより、教員の派遣、留学生の受入等を行っている。 ・国際交流協定では、新たに1大学と大学間協定を、5大学と部局間協定を締結し、国際交流を推進している。 ・『アジア人財資金構想 高度実践留学生育成事業』を中心となって実施し、留学生に対してインターンシップ(9名参加)、ビジネス教育等を行った。 ○ 中高校生の科学啓発 『科学大好き岡山クラブ』や『科学先取り岡山コース』を主催し、中高校生への科学教育の普及に努めている。また、中高校生の物理チャレンジへの協力も引き続き実施しており、高校生との研究紹介と交流の会も継続して開催している。 ○ 女性研究者育成 ウーマンテニュアトラック事業に協力し、平成23年4月から4名の女性教員の受け入れを決定した。 		
	達成度： ④ 3 2 1			
研 究	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競争的資金・外部資金獲得拡大 ○ 戦略的プロジェクト、重点プロジェクト、学内共同研究の推進 ○ 産学連携の推進 ○ 将来構想の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競争的資金・外部資金獲得拡大 ○ 産学連携の推進 平成21年度は共同研究・受託研究の件数がそれぞれ32件・13件増加した。 ○ 戦略的プロジェクト、重点プロジェクト、学内共同研究の推進 G-COEへの申請を通して学内共同研究体制を構築し、アクチュエータ研究センターとして研究プロジェクトを推進している。 ○ 将来構想の検討 自然科学研究科 先端自然科学教育研究推進本部に研究企画部門・研究企画推進WGを設置し、特色ある研究のマッピングや研究科として取り組むべき課題の選定等を行うこととした。また、本WGにより平成23年度特別経費プロジェクトの概算要求候補を選定した。さらに、重点プロジェクトの立ち上げを促進するため、研究科長裁量経費により助成を行うこととし、平成21年度は9件に対して約1,600万円の助成を実施した。 		
	達成度： 4 ③ 2 1			
社 会 貢 献	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域高校との更なる連携 ○ 地域産業の活性化に寄与する ○ 中高校生の科学啓発 ○ 戦略的大学間連携支援事業による地域の活性化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域高校との更なる連携 ○ 中高校生の科学啓発 『科学大好き岡山クラブ』や『科学先取り岡山コース』を主催し、中高校生への科学教育の普及に努めている。また、中高校生の物理チャレンジへの協力も引き続き実施しており、高校生との研究紹介と交流の会も継続して開催している。21年度は新たに研究紹介と交流の会と併せて高校教員との懇談会を開催した。 岡山一宮高校のSSH、岡山大安寺中等学校(6年一貫)から授業や発表会への協力依頼があり、連携を図ることとした。 ○ 地域産業の活性化に寄与する ○ 戦略的大学間連携支援事業による地域の活性化推進 平成21年度は共同研究・受託研究の件数が前年度比でそれぞれ32件・13件増加した。また、知財フォーラムや岡山県主催の産学交流会へ積極的に参加した。 		
	達成度： 4 ③ 2 1			
客 観 的 指 標	事項	前年	今年の目標	達成状況
	学部入試倍率			
	大学院充足率	修士 126.0% 博士 77.5%	博士については充足率 100%を目指す	修士121.6%、博士94.1%(後期3年) 博士(5年一貫)175%
	科研費申請率	新規申請 96.3%	教員全員の申請を目指す。	92.6%
	科研費採択率	新規採択 20.7%	前年の水準を維持する。	19.4%
	共同研究件数	90	前年の水準を維持する。	122
	受託研究件数	91	前年の水準を維持する。	104
	留年・休学・退学者数	修士 博士 留年 6名 50名 休学 14名 36名 退学 28名 19名	(今年の状況)	修士 博士 留年 16名 40名 休学 17名 20名 退学 15名 20名
就職率		前年の水準を維持する。		

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

教育面では、昨年度の事業を継続・発展させるとともに、ウーマンテニュアトラック(WTT)事業の初年度において、本研究科の所属として4名の女性教員の採用を決定したことは大きな成果である。また、先進基礎科学特別コース導入準備室の設置は、次年度以降のコース導入に向けて有意義である。次年度では、WTTを含むテニュアトラック制の導入、特別コース、大学院定員の見直し等を軸とした大学院教育改革の本格的議論が必要である。研究面では、共同研究・受託研究の件数が増加し、産学連携が順調に推進されている。また、研究科長裁量経費を若手研究者を含む研究プロジェクトの助成に活用することにより、平成23年度概算要求プロジェクト候補として数件の重点研究プロジェクトを選定した。ただし、科研費申請率と新規採択率が前年に比べてやや減少しており、次年度においては、さらに積極的な啓蒙活動や採択率増加のための取り組みが必要である。社会貢献においては、地域高校との連携、中高校生の科学啓発において十分な成果が得られたと考える。また、教職員個々の産学連携や研究会活動を通して地域産業や地域の活性化に貢献しているが、若手教員等を含めた組織的貢献を推進するため、次年度においては研究科主導の組織的連携システムの構築が求められる。

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)